

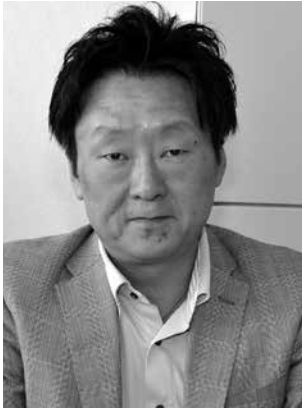
まだまだやれる新基準機

# 新基準機は脱等価の波に乗れ

パチンコより先が明るいと言われるパチスロだが、本当にそうか。自主規制の状況次第では、現在市場に出回る新基準機より、さらに射幸性が落ちることも想像できる。未来が見通せないなら、今ある新基準機を「使えない」と切り捨ててしまうのは、いかにももったいない。今ある機械は何が使えて、今後はどう使っていけばいいのか、あらためて考えてみた。

## 新基準機の運用は リスクヘッジが大事

エスサポートの三木貴鎬社長は新基準機について「現在のパチスロユーザーはギャンブル志向、ジャグラー好き、パチスロのゲーム性ファン、新台ユーザーの4パターンに分類できます。この内、約40%を占めるギャンブル志向は、『GOD』『パジ絆』などの旧基準機に流れている。新基準機は約20%のパチスロのゲーム性ファンと、10%程度の新台ユーザーにしか訴求できない状況です



三木社長

が、新台は次の新台が登場するとさらに流れてしまう。そのため、実質20%のユーザーを奪い合い、機械寿命がどんどん短くなっている」と分析。

その上で、今後の新基準機について「3000枚リミッター案など、自主規制の動向次第では、今より射幸性やゲーム性が低下する」として、新基準機の導入は「リスクヘッジを第一に考える必要がある」と話す。

## 機種選定のポイントは ブランド力と確定演出

では、ここでいうリスクヘッジとは何か。必要なのは、新台、中古に係らず、ハズレ機種を掴まないこと。アテイン・糸柳達成社長は機種選定の基準として、「メーカー」と「高設定確定演出の有無」の二つをあげる。この場合の「メーカー」とは、メー

カーの開発力に対する信頼感。

「平和、サミー、ユニバーサル」の版權ものは、ハズレが少ない」とは、あるコンサルタントの意見だが、糸柳社長も同様の考え。

重い初当たりと、間延びしたゲーム性で批判を受けることが多い新基準機。だからこそ、ユーザーを飽きさせない、ゲーム性や演出の作り込みが必須。この部分の作り込みが機種の評価を左右するだけに、メーカーの開発のセンスが重要なのだ。

「確定演出の有無」については、

新基準機は小役やモード移行などの設定差を明確にしているケースが多く、設定判別はボーナス終了後の液晶演出で示唆するのが一般的。

この設定判別の明確さを生かし、確定演出がある機械に積極的に設定を入れてユーザーに高設定を印象付け、ほかの低設定機を動かす。そのためにも、「確定演出の有無」は機種



脱等価により、設定が入る本数がふえている

選定の重要な要素なのだ」と力説する。候補機はチームで打ち込み船頭多くして評価固まる

一方、三木社長は「リスク軽減なら、稼働状況を見てからでも遅くない。これまでの統計から、初週2万3000枚稼働で、翌週の騰落率が10%以下の機械は稼働が見込めるので、購入検討もありです」と話す。

また、「新基準機は、コイン単価2・4〜2・7円ぐらいの機械がユー



三木社長、糸柳社長が導入候補に挙げる「ガルパン」

「ザー人気を獲得する傾向が強い」とも。

異なる角度から、機種選定ポイントを提示した両氏だが、「一番大事なこと」として挙げたのは、「店舗のロット担当者が実際に機械を打ち込むこと」だ。

先に述べたように、新基準機は現在過渡期。各メーカーとも試行錯誤の最中なだけに、機種ごとにゲーム性や特性を見極めることが大切。

そのためには、担当者やホールのロット好きのスタッフなどでチーム

を作り、購入候補となる機種をショールームなどで徹底的に打ち込んでチーム間で意見交換を行う。その上で購入の検討をすることが、ハズレを掴むリスクを減らすこととなる。

### ギアスとマジハロが 新基準の購入候補

それでは、これらのポイントを踏まえた上で、どんな機械が購入対象となるのか。具体的に挙げてみよう。

糸柳社長、三木社長の二人が候補に挙げるのは「マジハロ5」「偽物語」「ガルパン」の3機種。

特に、「マジハロ5」は、豊富なART突入契機や、打てば打つほど作品の世界観を楽しめる仕掛けが施されており、純増約1枚でもユーザーを飽きさせないゲーム性は、今後の新基準機の方性の参考になると評価する。

一方、入替自粛明けの新台なら、「コードギアス 反逆のルルーシュ R2」。原作のバトルシーンを高確上乗せや高継続ループなど、ARTのゲーム性で再現した前作を継承し、より自力感を感じられる作り込みがなされ、「ハズレの少ない」サミー製ということで期待感も高い。「全面液晶の機械は、ほかに比べて、稼働が1〜2割上がる傾向がある」という意見もあるので、その点からも注目できる。



糸柳社長

### 脱等価の今だからこそ 新基準に設定を

それでは、厳選して購入した新基準機は、どのように使っていけばいいのか。これは、先に述べたように、高設定確定演出のある機械に設定を入れていくしかない。

新基準機の場合、設定差が分かりにくい機械が多い。極端に言ってしまうと、確定演出を見ない限り、ユーザーにとっては設定1も設定5も同じということになる。

なので、必要なことは、ユーザーに対して、どれだけ確定演出を見せられるか。ひいては、「設定6を使っているホール」というイメージを刷り込むかということ。

「新基準機の場合、設定5・6でも辛い機械が多いので、積極的に設定を使わないと、短い機械寿命が一層短くなる」と糸柳社長。

三木社長も「設定を入れて初当たりを軽くすることが一番重要。ユーザーは、ボーナス確率で300分の1、ART突入確率なら

400分の1以上になると、遊技に耐えられない傾向が強い」と言う。そして、「新基準機は、脱等価で使うことで生きてくるかもしれない」と口をそろえる。

脱等価の動きが広がりを見せている現在、以前に比べ、高設定や偶数設定の本数を増やしやすくなっている。特に偶数設定は、リセットをきちんとして行うことで良好な挙動を見せるといえる。

とはいっても、「高設定を入れるなら、『ジャグラ』と『バジ絆』を優先する」というのがホールの考え。

だが、ここで少し考え方を変えてみるのはどうだろう。

「ジャグラ」や「バジ絆」は、設定を入れて、還元をして初めて高設定の効果が出てくる。だが、下位店舗の場合は肝心の稼働が少なく、設定を入れても客に伝わらない。

しかし、新基準機なら、たとえ稼働が少なくともボーナスを引き、「確定画面」さえ出ればユーザーに設定を入れていることをアピールできる。

つまり、下位店舗でも、新基準機の部門なら、上位店舗を逆転できるということだ。

先行きが見通せないこの時期、リスクヘッジは大切だ。しかし、「人のしないことをする」のがビジネスの常道。そういう意味では、挑戦してみる価値があるのではないか。